



MONGOLIA

学校名: 松戸市立東松戸小学校

氏名: 菅原 由実

[担当教科:] 全教科

● 実践教科等: 学級活動 道徳

● 時間数 : 6時間

● 対象生徒 : 小学1年生

● 対象人数 : 32人

1 単元名

2020年 東京オリンピックの招待状を書こう

2 単元の目標

ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度(国立教育政策研究所が例として示したもの)

- ・「モンゴルと自分たちとの生活や文化を比べ知ること、親しみをもちながら他国への興味関心を深める。(多面的・総合的に考える力)」
- ・「モンゴルと日本のかかわりを知ること、お互いに助け合っていることに気が付く。また、助け合い協力していこうとする心情を育てる。(つながりを尊重する態度)」
- ・「招待状(紹介のページ)書く活動を通して、日本や地域、自分たちの生活のよさに気が付く。また、その一員として生活していこうとする態度を育てる。(進んで参加する態度)」

3 資質・能力育成に向けた授業づくりの視点(国立教育政策研究所・2014)

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1 意味のある問いや課題で学びの文脈を造る | 2 子供の多様な考えを引き出す |
| 3 考えを深めるために対話のある活動を導入する | 4 考えるための材料を見極めて提供する |
| 5 すべ・手立ては活動に埋め込むなど工夫する | 6 子供が学び方を振り返り自覚する機会を提供する |
| 7 互いの考えを認め合い学び合う文化を創る | |

4 単元の指導について

(1)教材観

本単元では、モンゴルの国や文化の理解を通し、他国への興味関心、他国と自国のつながり、自国への興味と誇りを深めていくことをねらいとしている。

本校は、今年4月に開校したばかりの新設校である。本校学区は、まさに開発真只中にある。アパートやマンションをはじめ、大型施設がどんどん建設されている。鉄道や道路などの交通の利便性も高い。その中でも、人々が憩える公園や森があったり、四季の変化が感じられる桜通りがあったりするなど、この地域ならではの自然も多いのが特徴である。本学級の子供達は、生活科での公園探検や季節の遊びを通して、そういったこの地域の特徴を学んできている。この地域で暮らす一人として、これからもその良さを大切にしながら過ごしていってほしいと思う。

今年度はリオオリンピックが行われた。本学級の子供達も、夏休み前からとても心待ちにしていた。その関心の高さからも、「オリンピック」をテーマとした国際理解教育を行うことを考えた。スポーツを通して、世界各国から集まった様々な人や文化が交流するという話から本単元を始める。小学校1年生ということもあり、実体験やクイズなどを通して楽しみながら他国を理解させていきたい。その中で、自国と比べた時に違いよりも似ているところがたくさんあることに気が付かせ、親しみをもちながら相手国を理解していけるようにしたい。また、環境や文化の違う中で生活する人々や、国を超えて人々の生活の向上のために活躍する人がいること、そしてそれらの「人の思い」に気付かせることで、これからの国際社会を担う一員として何が大事であるのか考えるきっかけとしたいと考え、本単元を実践していく。

(2)児童生徒観

LARD(松戸市・言語活用科)の授業、また昼の放送でその日の一口英語や英語の歌が流れてくるなど、児童が外国語に触れる環境が日常にある。本学級の児童も、歌や手遊びを通して外国語に楽しく触れている。

私のモンゴル話にも、大変興味関心をもって聞いていた。自分たちの国や文化の違いがあることを

知り、目を丸くして話を聞く姿が印象的だった。「もっと知りたい」「どうなっているんだろう」というような思いも、授業する度に強くなってきていた。また、文化や生活、国の特徴など異なる外国の国でも、「日本と似ているところがたくさんある」ことや、「日本とモンゴルにはつながりがある」ことを知り、モンゴルへの親しみもさらに増していると感じる。

本学級には入学当初から、世界の国名や国旗に関心を示す児童が数名いた。今は、その児童を中心に、教室掲示の世界地図を見て、進んで様々な国のあいさつや国旗を覚え交流し合う姿も多く見られる。モンゴル紹介の授業と並行して、世界の国のあいさつや国旗を覚えゲームも行ってきたこともあり、様々な国々に関心をもち始めてきていることがわかる。

5 評価基準

観点	1. 関心・意欲・態度	2. 気づき	3. 思考・判断
評価規準	・他国の特徴や文化、生活などに関心をもっている。	・自国と比べたときに、違いだけでなく、似ているところもたくさんあることに着目している。 ・自国が、モンゴルをはじめ様々な国とつながっていることに気付いている。	・4つのキーワードをもとに、モンゴルの国の様子を考えようとしている。 ・モンゴルの特徴と比べながら、日本の特徴を考えている。
評価方法	・発言 ・感想カード	・発言 ・感想カード	・発言 ・感想カード ・紹介カード

6 単元の構成

時	小単元名	学習のねらい	授業内容
1	オリンピックの招待状を書こう 【学活】	・学習の見通しをもつ。 ・学習問題をもつ。	・リオオリンピックについて話す。 ・招待状を書くために、モンゴルのことを学習していこうという見通しをもつ。 ・モンゴルは「なぜ柔道や相撲が強いのか」という疑問から、「強さの秘密を知ろう」という学習問題をたてる。
2	モンゴルのことを知ろう① ～柔道や相撲の強さの秘密～ 【道徳】	・国の特徴を知り、モンゴルへの関心を深める。	・「食べ物」「気候」「土地」「文化」をキーワードとして、写真を使いながらモンゴルの国の特徴を知る。 ・あいさつやじゃんけん、おもちゃなど実物に触れながら文化体験をする。
3	モンゴルのことを知ろう② ～モンゴルの小学校～ 【道徳】	・小学校や子供達の様子を知ることで、モンゴルへの関心をさらに深める。 ・異なる環境の中でも、子供達が一生懸命学んでいることに気が付く。	・写真を使いながら、自分たちの小学校と似ているところや違うところを見つける。ちがいがいい、似ているところがたくさんあることに着目する。 ・自分たちと同じ小学生の好きな遊びや好きな勉強、将来の夢などを聞く。
4	モンゴルのことを知ろう③ ～モンゴルと日本のつながり～ 【道徳】	・日本とモンゴルには①もの②人のつながりがあることを知る。 ・お互いに協力することの大切さに気が付く。 ・モンゴルだけでなく、日本は世界ともつながりがあることを知る。	・モンゴルには日本人やもの、また日本にもモンゴルのものや人があることを知る。そこから、両国の間には「人のつながり」や「もののつながり」があることを知る。 ・モンゴルの地で、人々の生活の向上のために活躍する日本人の存在を知る。 ・日本人もモンゴル人も「助け合う」気持ちをもって活動をしていることを知り、互いに協力していくことの大切さに気が付く。 ・日本には、世界からたくさんのものがきていることを知る。日本は世界ともつながっていること

JICA 教師海外研修 授業実践報告書フォーマット

			に気が付く。
5	招待状を作ろう ①【学活】	・これまでの話を聞き、モンゴルの中で自分が一番すてきだなと思ったことを選ぶ。	・これまでの話を振り返り、再度モンゴルの国の特徴を整理する。 ・一番すてきだなとおもった選び、招待状に書く。 ・6回目の授業で紹介することを伝え、紹介の練習をする。
・空いた時間を使い①担当する紹介テーマを決める。②紹介テーマについて、書く材料を探す。それぞれのテーマに対し、その詳しい内容を皆で考える。その内容に合う写真を見ながら、書きたいことをイメージさせる。			
6	招待状を作ろう ②紹介のページを書こう 【学活】	・モンゴルのすてきなところを紹介する。 ・紹介のページを書く活動を通して、日本や自分たちの生活のよさに気が付く。	・モンゴルのすてきなところを、来てくれた先生方に写真を見せながら紹介する。 ・「日本ならではの」を探したり、モンゴルの特徴と比べたりしながら、紹介カードを作る。

7 授業事例の紹介

小単元名【 しょうかいのページをかこう 】

(1) 指導案

(ア) 実施日時 11月29日(火) 第5限

(イ) 実施会場 オープンスペース 1年2組教室

(ウ) 本時の目標

- ・これまでの授業を通し、感じたモンゴルのよさを相手に伝える。
- ・「日本ならではの」を考えたり、モンゴルの特徴と比べたりしながら、紹介のページを作る。

(エ) 指導のポイント

- ・これまで学習したモンゴルの国の特徴と比べながら、ページの内容を考えられるようにする。
- ・自国ならではの特徴やよさに気が付けるようにする。

(オ) 本時の展開

・時間	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	評価 (評価規 準・評価
5	1 すてきなところを紹介する。	○写真を見せながら、相手にモンゴルのよさを伝える。	ペア	・伝え方の約束を確認する。 ・1分×3回行う。	話す 態度
10	2 本時の目標を確認する。	しょうかいのページをかこう			
		○教師の作った見本を見せて、紹介カードに書くことを確認する。	全体	・見本は大きく作ったものを掲示する。 ・見本を見せて、どんなことを書くかを発表する。 ・「日本ならではの」と「モンゴルと比べて(にているところやちがうところ)」という書くポイントをおさえる。	発言
20	3 紹介文を書く。	○「紹介のページを書こう」	個人	・机間指導し、悩んでいる児童には声をかける。 ・進みがはやい児童のページを投影機で映し、見本とする。	書く 態度
5	4 書いたことを発表する。 【7】	○「作ったページを紹介しよう」 ・数人の児童が作った紹介のページを発表する。 ・友達のページを見て、よかったところを伝えよう。	全体	・児童のカードは投影機で映す。 ・ページを書いた感想も発表する。	発言 聞く 態度
5	5 学習のまとめをする。	○作った招待状をモンゴルの友達に送ることを伝える。 ○JICAの方から、「世界をつなぐ仕事」についての話を聞く。	全体	・4時間目に行った授業の「世界と日本のつながり」と関連させて考えられるようにする。	聞く 態度

※紹介テーマ（11のテーマにしぼり、モンゴルと日本の特徴をそれぞれ考えた。）

国のこと	①土地②気候③食べ物④文化⑤交通・家
学校のこと	⑥学校⑦教室⑧勉強⑨給食⑩行事⑪遊び

（2）授業の振り返り

【成果】

・これまでの授業を通し、子供達がモンゴルの友達に向けて招待状を書きたいという思いを高めたまま本時の活動に臨むことができた。

【課題】

- ・紹介カードの担当を決めてしまうのではなく子供達に選ばせていたら、もっと書きやすかったと思う。
- ・「日本ならではの」は、1年生にとってはテーマが身近でなく、難しかった。
- ・紹介文を書く際、「日本では」「くらべると」のキーワードをどう入れるか、子供達が悩んでいた。「日本では」は使いやすかったが、「くらべると」は使いにくかった。「にいていて」や「ちがっていて」の方が使いやすかった。

（3）使用教材

①オープンスペースの掲示

【モンゴル紹介コーナー】

【わたしたちが選んだモンゴルで1番すてきなところ】



本校のオープンスペースを使って、モンゴルの文化紹介を行った。モンゴルについての写真を掲示したり、おもちゃや民族衣装などの実物も展示したりして、校内児童、来校した保護者にも楽しんでもらえるようにした。また、授業を通し、子供達が1番すてきなと思ったモンゴルのみ力について書いたカードも、文化紹介の一つとして掲示した。

②教室掲示

【授業コーナー 板書や授業後の感想】

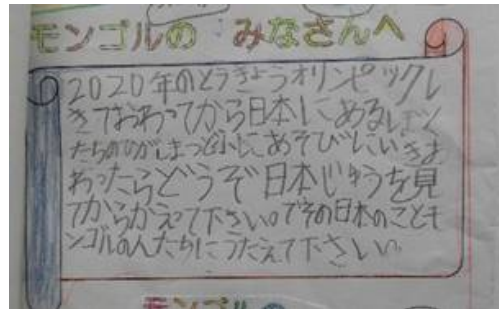
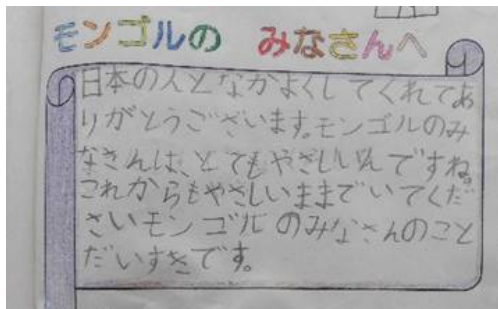


【子供達の関心の高い世界地図・つながり】

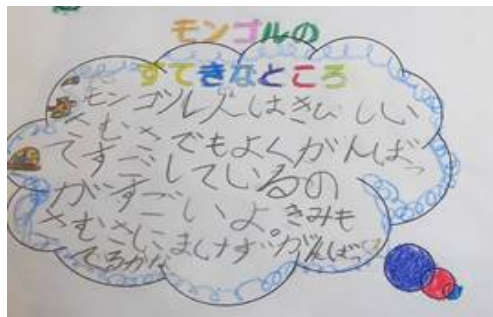


③完成した招待状

【モンゴルのすてきなところ・モンゴルの友達へ】



【モンゴルのすてきなところ】



【日本・わたしたちの学校のしょうかい】

①給食の時間のしょうかい

②日本の春・桜のしょうかい



日本ではきょうしゅくをくばる
とうばんがしまきょうしゅく
とうばんはまきをしてはくい
もきてきょうしゅくをくばります。



本では、はるになたらさくらが
かいいさきはこります。はるになると
はるまつりにあがしきがひらかれて
あたらしい一年生がはいてきます。

8 単元をととした児童生徒の反応/変化

【毎時間の感想から】

○3時間目

- ・にほんとおなじものやちがうものがあるのをはじめてして、おもしろかった。
- ・おおくのモンゴルのひみつがいったんにわかった。ママといっしょに「せかいのこんにちは」もできて、よかった。

○4時間目

- ・3.11のときにモンゴルの人たすけてくれたことが見れたし、モンゴルのしょうぼう車もきてたすけてくれて、ありがとうございますと思っています。
- ・日本とモンゴルはたすけあったりなかよしだったり、モンゴル人が日本の手つだいをしたり日本がモンゴルの手つだいをしていました。
- ・モンゴル人は日本を大事にしているのがわかりました。あと、じしんのときにたすけてくれるモンゴル人がやさしいなとおもいました。

【意識や行動の変容】

○自国への関心

- ・生活科の昔あそび、国語のカタカナや漢字学習などの授業の時間や給食の時間などで、子供達が「日本ならではの」に気が付き、進んで探すようになった。日本の文化や食べ物を中心に、自国への関心が高まっていることがわかる。

○他国への関心

- ・子供達同士の会話(世界のあいさつを言い合う、国名の話をするなど)、図書室から借りる本(文化

紹介の本、国旗の本、世界地図など)を見ていると、様々な国への興味関心へもってきていることがわかる。

・身の回りのカタカナ言葉に反応し、どここの国からきているものなのか話している様子をよく見ることから、特に「もののつながり」に関心をもっていることがわかる。

9 授業実践全体の成果と課題及び課題の改善策

P 計画	・児童の実態、ねらいや学習内容と教科・領域との関連を考えながら単元計画を練った。 ・「他国への興味関心を深める」「自国のよさに気付く」を大きなねらいとすることを決めた。 ・帰国後、伝えたいことを4つにしぼった。 ①モンゴルはどんな国か②モンゴルの小学校・子供達のこと③モンゴルと日本をくらべる④モンゴルと日本のつながり
D 実施	・国の特徴を考えるときのキーワードを決め、1年生でもわかりやすいようにした。キーワードは、どの授業でも使い、またキーワードをもとにさらに関連させて考えていけるようにした。キーワードは、「土地」「食べ物」「気候」「文化」を基本として、「<u>広い草原</u>」「<u>海がない</u>」「<u>家畜</u>」「<u>赤と白の食べ物</u>」「<u>きびしい冬の寒さ</u>」「<u>祭り(ナードム)</u>」「<u>二部制</u>」、「<u>もののつながり</u>」「<u>人のつながり</u>」などのように広げていったり、増やしていったりした。 ・パワーポイントを使い、多くの写真を見せた。クイズにし、楽しく国のことが理解できるようにした。文化紹介では、衣装を身につけたり、飲み物の匂いを嗅いだり、おもちゃに触れたりした。 ・教室には、1時間ごとの授業の板書やモンゴルを紹介する写真を掲示した。また、本校のオープンスペースに文化紹介・体験コーナーを作り、いつでも誰でもモンゴルに触れられるようにした。
C 検証	・授業の最後には、子供達に「心に残ったこと」として、感想を書かせた。子供達がどんなところに関心をもったか把握したり、新たな疑問に対しては協力隊の方に聞いて応えたりした。次の授業で数人の感想を発表し、友達がどんなことを感じたのか全体に共有できるようにもした。 ・3時間目を授業参観、4時間目を市教委訪問で実施したことで、保護者や教育委員の先生にも授業を参観し、アドバイスをもらった。 ・他クラスで事前授業を行った。子供達の反応を把握したり、改善に向けてのアドバイスをもらったりして自クラスの授業に臨んだ。
A 改善	・招待状を通して、実際にモンゴルの友達とつながることができたのはよかった。 ・紹介コーナーの展示の仕方には工夫と改善が必要である。 ・特に低学年における国際理解教育は、教科・領域とどのように関連させていくのか、今後考えていく必要がある。

10 教師海外研修に参加して

この研修で、現地の方、JICA の方々の「思い」を聞くことができた。そこには、「人々の生活をよりよくしたい」という強い思いが共通しており、そして様々な問題の解決に向けて奮闘する姿があった。私は、その人々の姿と思いを、子供達に伝えなければいけないと心を突き動かされ、本実践に臨んだ。

授業を進めていく中で、子供達がどんどんモンゴルの魅力にはまっていった。他の国のことを知ることとはとても面白いことだと話していた姿も印象的である。また、プラスの面に目を向けるばかりでなく、中には二部制という問題に最後まで熱心に関心を寄せていた子もいた。二部制という環境の中で勉強やお手伝いを頑張っているんだねと共感する様子が見られたことも嬉しかった。

モンゴルから帰国後、伝えたいことは山ほどあった。その中から選び、授業を組み立てていくのは難しかった。しかし、授業が終わる度に、子供達が心に残ったことや感じたことを口々に伝えてくれたことから、とてもやりがいのある実践となったと感じる。子供達の興味関心をさらに高めるだけでなく、自分たちで問題を見出し、それに向けてなんとかしようという思いをもつ子供が増えていけば、それがやがて「社会の変容」へつながっていくのだろうと思った。これからの国際社会が「一人ひとりの能力が発揮できる社会」となるよう、子供達と共に考え行動できる教師として励んでいきたい。